研究所だより

第３１２号
２０１１年９月１日
発行：土佐清水市教育研究所
ＴＥＬ　８２－３０１６

＜土佐清水市教育研究集会・一日教研＞

一日教研ご苦労様でした。午前中の各部会研修、午後の全体会では、講師に野口芳宏先生（植草学園大学教授）をお招きし、「どの子も国語が好きになる指導法」と題しての講演と、先生方の自主的、主体的な研修となったことと思います。

【算数部会】

模擬授業－「九九をつくろう」
授業者－島崎やよい先生（清水小）

・感想

２年生かけ算の模擬授業がとても勉強になりました。島崎先生が子どもの実態を考えて、出ないだろうと思う考え方をパソコンを使って指導したり、評価もありよかったです。話し合いも見　通しの持たせ方や教科書にのっている言葉の指導などについて話し合い、濃い内　容でした。

教材研究は同じかけ算だったので引き続きできました。

実践交流はそれぞれが発表でき、時間が足りませんでした。部員のみんなの意欲を感じました。

【教育相談部会】

自閉症スペクトラム障害の理解と支援
講師　合田 桂子先生（心の教育センター）

・感想

自閉症の子どもたちがどんなに見えているか、どんな心理状態になっているか等の模擬体験ができたので、子どもの状態が分かってよ　かった。

事例質問の時、一人ひとりの子どものことを丁寧に聴いてくれてアドバイスもわかりやすかった。また、参考図書の紹介もたくさんしてくれてよかった。もっと聞きたかったが、時間がなくて残念だった。

【講演会感想】

・メモ（ノート）を取ることの大切さを実感しました。
・本を読ませていただいたので、答えが何となく分かりましたが、やっぱり本物を聞くと（体験して）実感できました。
・国語だけでなく、各教科についてもいかしていける指導法を教えていただきました。　２学期からにいかしていきます。
・集中させて大事なことを伝えてくれるいい話だったと思います。
・野口先生の講演で学んだこと。①挙手の仕方。　②なぜ書いたのか追求する。③国語でも解を明らかにする。これらを具体的に語っていただき分かりやすかった。

＜学習のつまずきへの具体的な指導＞－桂 聖、廣瀬 由美子編集「授業のユニバーサルデザイン」より抜粋

日々の教室活動の中で、こんな子はいませんか。代表的な事例をピックアップ。

９，一斉指導での指示理解が難しく、学習活動に影響が出やすい

事例１　Ｉ君は（小１）個別的な指示は伝わるのですが、一斉指導の場面では指示の理解が難しい子です。注意散漫で、友だちの動きや持ち物が気になって仕方がないようです。また、先生が提示した教材に触れようとするため、席から離れてしまうこともあります。

指導例　**①座席は先生から近いところに**

指示の聞き漏らしを防ぐために、できる限り先生に近いところに座席を設ける必要があります。正面の真ん中がよいでしょう。

②一斉指示と個別的な指示を併用する

一斉指示を出した直後に、Ｉ君に向けてわかりやすい指示を伝えます。時間を空けて後から説明するよりも、その場で指示を出す方が聞き取る力を育てます。

③注意喚起の予告をする

「大事なお話です」「一度しか言いません」など、気持ちが指示内容を聞き取ることに向かうような予告をします。

④伝わる言葉で指示を出す

理解語彙の少ない子や、聞き取って記憶にとどめておくことが苦手な子にとって、知らない言葉や聞き慣れない言葉での指示の理解は難しいものがあります。Ｉ君にとっての有意味語で語りかけましょう。「何度言っても指示が通らない」と嘆きたくなる場合は、「何度も**“無意味語”で語りかけていたのかも･･･」と指導のほうを見直す必要があります。**

⑤子どもに恥をかかせない

その子の側に近寄り、さりげなくポイントを伝え直すなど、子どものプライドを傷つけない配慮が大切です。

＜自作ポエム＞－清水高校定時制文集「夜光虫」より

友達

笑ったり
泣いたり
ケンカをしたり
バカしたり
そうやってできる友達は
私は大切だ
私は友達は宝物だ
大好きです。

幸せ

幸せなことってなんだろうと
思ったことがある
幸せがどこからくるのか
わからない時がある
幸せは見えないし
さわることができない
もし見えたりさわれたら
人は幸せになると思う

10，衝撃的な発言が多く、授業中の活動から逸脱しやすい

事例２　Ｊさんは（小５）、質問の途中で最後まで聞かずに「それは〇〇のことでしょう」と的外れな発言をしてしまいます。話を最後まで聞いて考えてから答える、ということが苦手なようです。

指導例　**①「質問－挙手－指名－発言」のルールを再度確認する**

高学年だからといって発言にルールがあることが定着しているとは限りません。改めて、発問者である先生と、解答者である子どもたちとのやりとりのルールを確認しましょう。「質問→挙手→指名→発言」というルールであれば、やりとりが２往復になっていることを伝えます。

②自分の意志を伝える方法を多様に用意する

衝動的な発言が多い子に、「先生の質問を途中で遮らない」「友だちの学習の邪魔をしない」といった我慢タイプの目標はうまくいきません。むしろ、自分の意志を伝える方法が発言しかないということを見直す必要があるのではないでしょうか？以下のように多種多様な解答方法を用意しましょう。

・質問を聞いてわかったら、ワークシートに記入する。
・質問の後で選択肢を示し、その番号を指で作ってみせる。
・質問を聞いて、隣の人と相談し、意見を統一させて挙手する。等

③ポジティブな子ども理解を

衝動的な発言は、アイデアの豊かさの裏返しかもしれません。「待てない」「我慢できない」「わがまま」といったネガティブな子ども理解のままでは、Ｊさんは悪い子になってしまいます。思い立ったらすぐに行動に移せる実行力を認めるような教師のポジティブな子ども理解で、自然と衝動的な発言が減ることがあります。

11，グループ活動が苦手なため、学習活動に参加できない

事例３　Ｋ君は（小５）、友達の輪の中に入って一緒に行動することが苦手です。クラスの中で浮きがちで、グループ学習になると何をしてよいのかわからず、状況に関係ない話をしてしまいます。

指導例　**①グループ編成への配慮**

Ｋ君はクラスの中でも「変わった子」「付き合いづらい子」と見られているのかもしれません。たくさんの子と仲良くといった目標よりも、まずは特定の友だちとの距離を縮めることを目標にします。グループを編成する際には、Ｋ君の特徴をよく理解している友だちを入れます。

②次に行うべきことや、活動のゴールを明確に示す

Ｋ君は、課題の内容がわからないとマイペースさが目立ってしまいます。また、わからないときに友だちに尋ねるという、相談や確認のスキルも弱いようです。活動のテーマや手順、役割分担などを明確にし、場合によってはグループでの活動を進めるための手順表を用意します。グループ編成次第では、先生が大きく介入して、方向性を示すことも必要かもしれません。

③「協力」「合意」などの抽象的な概念を見せる工夫

「協力する」「意見をまとめる」などの抽象的な概念を学ぶには、どのようにすればよいでしょうか。グループのメンバーで大きな荷物を持ち上げる場面があれば「力を合わせる」ことを行動で学びます。一人一人に粘土のひとかたまりを持たせ、グループメンバーで大きな粘土の固まりを作らせば「一つにまとめる」ことを実体験で学びます。理解しにくい抽象的な言葉の理解を促す工夫をしましょう。

12，興味・関心の幅が狭く、学習意欲のむらが大きい

事例４　Ｌ君は（小３）、ゲームが大好きです。好きなゲームになると、聞き手の都合もお構いなしで延々と話し続けます。ところが、興味のないこととのギャップが大きく、関心を持てない課題に対しては、何かと理由をつけて拒否したがります。

指導例　**①好きなこと（こだわり）を理解し、その世界に入ってみる**

多少のこだわりは誰でも持っています。そして自分の趣味や好きなものを否定されれば、誰（大人）だって不愉快な気持ちになりますし、反対に興味や話題が合う人とは心の距離が近くなります。まずは普段の会話でＬ君の好きなゲームを取り上げてみてはどうでしょうか。そして、課題に取り組むときには「ゲームのボスキャラ〇〇を倒すくらいの意気込みで。」とか「この問題の攻略法は〇〇作戦だよ」といったＬ君の興味・関心の枠に入る言葉を沿えます。

②興味・関心を尊重し、頼りにする場面を作る

Ｌ君の場合はゲームでしたが、この他に、電車・時刻表、昆虫、魚、恐竜、植物、歴史上の人物などに関心が偏る子が多いようです。授業の中で関連する話題として取り上げることができれば、先生や友だちから認められた、頼りにされたという成功体験を積み上げやすくなります。

③思いどおりにできないときの援助要求スキルを身につける

「うまくできない」「難しい」「思いどおりにいかない」という気持ちを抱くことは悪いことではありません。そこで、「気持ちは理解できるが、行動の出し方は間違っている」ということをしっかり伝えます。そして「やるｏｒやらない」の選択肢ではなく、「自分でやるかｏｒ興味は持てなくても手伝ってもらいながらやるか」の選択肢を提示します。「手伝ってほしい」などの援助を求める会話を身につけることも大切です。